

## 2024 年度日本太陽エネルギー学会 研究発表会 開催報告

加藤和彦\*

2024 年度の研究発表会は、2024 年 11 月 2（土）～3 日（日）（前日の 1 日は見学会）に日本風力エネルギー学会の協賛で北海道札幌市の札幌市立大学芸術の森キャンパス（写真 1）で開催されました。昨年同様オンラインを併用しない現地参加のみの形態での開催でした。

1998 年以來の土日開催となり幾分かの不安はありましたが、結果的には研究発表件数・参加者ともに概ね昨年と同様の規模になりました。具体的には



写真 1 札幌市立大学芸術の森キャンパス

表 1 研究発表 102 件の分野別内訳

気象・地球環境	4
太陽電池セル・モジュール	9
太陽光発電システム	29
太陽熱利用	7
建築	31
生物・バイオマス	7
応用利用・エネルギー貯蔵	9
材料・素子	2
風力・水力	1
理念・教育	3

研究発表が 102 件（95 件の口頭発表と 7 件のポスター発表）、参加者が 160 人でした。研究発表の分野別内訳は表 1 に示すとおりです。近年の傾向として太陽光発電システム分野と建築分野の発表が突出しています。裏を返すと他分野の発表が少ないことから、学会としてはこれらの分野の活性化を考えなければなりません。

初日午後の前半に行われたポスターセッションでは、松尾廣伸座長のアイデアにより、冒頭に各発表者が概要説明を行いました。これが奏功してポスターセッションは終了を強く促さねばならないほど最後まで熱心な議論が交わされました（写真 2）。これは来年度以降もやった方がよいし、またポスターセッション自体をもっと拡充してもよいと感じました。

初日の午後後半の特別講演会では、若尾真治会長のあいさつに続いてお二方にご講演をいただきました。初めに近年交流を再開した韓国太陽エネルギー学会（KSES）のパク・チャンデ会長による講演「Carbon neutrality and solar heat pump for the industrial sector」（写真 3）、つづいて北海道大学名誉教授である角幸博先生による「北海道の近代建築から～文化財を中心として～」です（写真 4）。特別講演会ではできるだけ開催地域の歴史や文化に関する話題を設けるようにしています。これは今後も継続していきたいと思っています。

また、初日の夜は中島公園の札幌コンサートホー

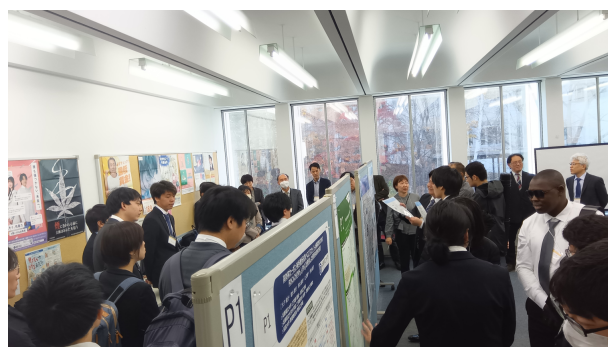


写真 2 熱気に満ちたポスターセッションの様子

\* 研究発表会運営委員会委員長

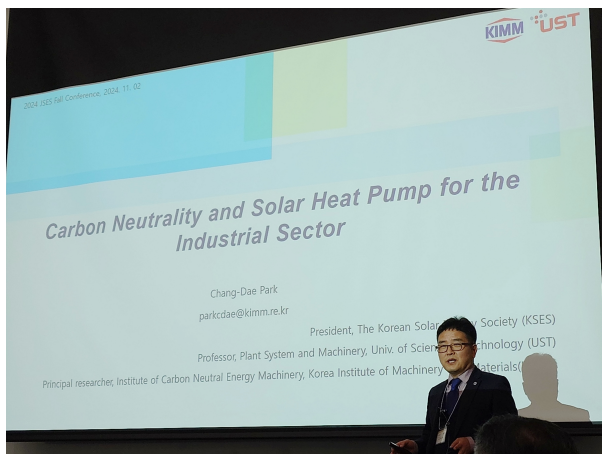


写真3 パク・チャンデ KSES 会長による特別講演の様子

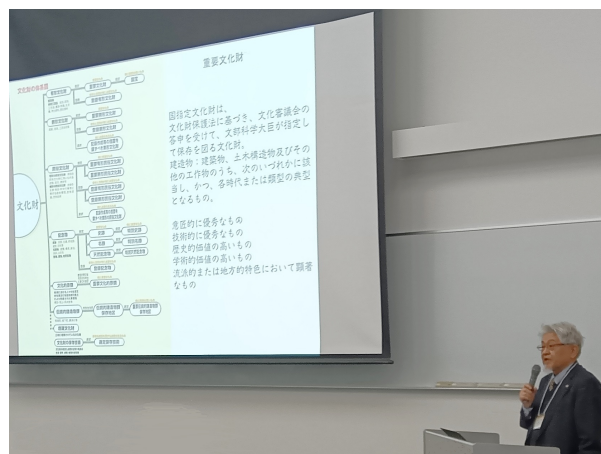


写真4 角幸博先生による特別講演の様子

ル Kitara 内のテラスレストラン「キタラ」に会場を移し、司会の労を植田議理事にお願いして参加者相互の懇親を深めました（写真5）。特別講演の講師お二人にもご参加いただいたのは望外の喜びでした。

二日目の午後には、これまで並行セッションの一つだった 100% 再生可能エネルギー研究部会の特設セッションを共通セッションとして開催しました。北海道におけるゼロカーボンに向けた施策や再生可能エネルギーの活用事例などをご紹介いただきました。現実には開催期間の制約はあるでしょうが、可能な範囲でこのような部会特設セッションを増やしてもよいかもしれません。

総じて札幌での研究発表会は成功裏に終えることができました。これは実行委員長として八面六臂のご活躍をしてくださった札幌市立大学の齊藤雅也先生と学生のみなさん、そして学会事務局の池田さん、荒井さん、竹井さんのおかげです。この誌面を借りてみなさんに心より御礼申し上げます。また、座長・副座長のみなさんにも御礼を申し上げます。

最後にプログラム編成や現地での運営にご尽力いただいた下記の運営委員会委員のみなさん、お疲れさまでした。来年もよろしくお願いします。



写真5 テラスレストラン「キタラ」で開催された懇親会の様子

副委員長	太田 勇	株式会社ミサワホーム 総合研究所
委員	秋澤 淳	東京農工大学
〃	石井 徹之	一般財団法人電力中央研究所
〃	植田 譲	東京理科大学
〃	宇都宮健志	一般財団法人日本気象協会
〃	高野 章弘	F-WAVE 株式会社
〃	盧 炫佑	OM ソーラー株式会社
〃	原田 真宏	大和ハウス工業株式会社
〃	松尾 廣伸	静岡大学
〃	宮本 裕介	株式会社関電工